



会長 古賀 健一郎
副会長 古田 和彦
書記 古賀 健一郎
会計 大高 治
直前会長 古田 和彦

国際会長 (IP) K.C.Samuel (India)

“Into the next 100 Years with FELLOWSHIP & IMPACT”

「フェロウシップとインパクトで次の100年へ」

アジア太平洋地域会長 (AP) Chen Ming Chen (Taiwan)

“Elegantly Change with New Era”

「新しい時代とともに、エレガントに変化を」

東日本区理事 (RD) 佐藤 重良 (甲府21)

“Let's act now for the future”

「未来に向けて今すぐ行動しよう」

湘南・沖縄部部长 (DG) 小松 仲史 (厚木)

「楽しく・元気よく・前向きに」 副題: 入りたくなるワイズにしよう

横浜クラブ会長 (CP) 古賀 健一郎

「他者と共に生きる ~ 平和を求めて」

“Live together in harmony ~ for Peace”

監事 松島 美一
ブリテン 伊藤 誠彦
担当主事 青木 英幸

<今月の聖句>

押川 幸夫

「何事にも時があり 天の下の出来事にはすべて定められた時がある。

生まれる時、死ぬ時 植える時、植えたものを抜く時
神はすべてを時宜にかなうように造り、また、永遠を思う心人を人に与えられる。

それでもなお、神のなさる業を始めから終りまで見極めることは許されていない。

(コヘレトの言葉 3章1, 2, 11節)

今月のひとこと

『初めての個人旅行の楽しさ』

押川 幸男



今年の夏に、ドイツのオーバーアマガウでの受難劇観劇と沼田市の姉妹都市であるフッセン市を妻と共に訪ねることができました。

3年前に沼田市の関係者と共にロマンチック街道を辿りつつフッセン市を訪問したときに、そこから電車で2時間の場所にオーバーアマガウがあることに気づきました。

今回は、今までのツアー旅行ではなく、初めての個人旅行

を企画しました。羽田とミュンヘンの往復航空券(ルフトハンザ航空)からミュンヘン、オーバーアマガウやフッセンでのホテルの予約は、インターネットである程度自分で調べて、クレジットカード会社に依頼し、その他の移動手段等は現地に着いてから考えることにして日本を出発しました。

気がかりだったオーバーアマガウでの受難劇チケットも、出発一週間前になんとか取得できました。羽田空港からの出発が豪雨のため2時間延びたため、ミュンヘン空港到着が夜の8時過ぎになりました。空港から中央駅へは高速バスで無事に到着。到着した場所が予約ホテルの反対側だったのと暗くなっていたので、周りの位置情報がよくわからず、30分程ホテルの周りをスーツケースを引きながらさまよい歩きま

押川ワイズ 今月の聖句について

11月は、多くの教会で永眠者(召天者)記念礼拝が守られます。私たちは、すでに世を去った愛する家族や、親しい友人たちと今も、夢やその他さまざまな仕方につながっているという経験を持っています。

それは、人生途上で困難にぶつかったり、危機的状況に置かれたとき、いろいろな仕方、すでに世を去った愛する人たちに助けられ、導かれ、励まされているということでもあります。

どうか、みもとに召された方々の生涯を通して示された、主の恵みを共に分かち合い、主にあって生かされる希望と喜びに導いてください。そして、あなたから遣わされて、今もこの世に生きることをゆるされている私たちが、召された方々を記念することを通して、ますます、主に従う者となることができるようにと祈ります。

<2022年10月例会実績>

在籍者	出席者	出席率	B F
12名	メン 6名 メネット 0名 コメット 0名 ビジター 0名 ゲスト 4名 合計 10名	67 % (メーキャ ップ2名を 含む) 前月修正出 席率 %	今月分 切手 0g 現金 0円 年度累計 切手 0g 現金 0円

<11月の行事予定>

EF/JEF

日	曜	時間	行事内容	場所
10	木	18:30	横浜クラブ第一例会	中央Y
23	水	10:00	横浜Y ウェルカム フェスタ(ミニバザー)	中央Y & 関内えきち か広場
24	木	17:00	横浜クラブ第二例会	オンライン

した。ようやくホテルにたどり着いた時には、安堵感とこれからの2週間大丈夫かなどの不安感が入り交じった状態でした。しかし、これもツアー旅行では体験できないものです。

さらに、ミュンヘンからオーバーアマガウまでの乗車券をチケットセンターで購入した際に、係員から8月中は何度でも使えますとの事でした。ドイツでは今年の5月から8月まで「9ユーロチケット」が発売され、バイエルン州のどこへでも普通列車で行くことができるチケットでした。私たちもこのチケットでフッセンからミュンヘンへ、あるいはバスでフッセンから10分で行ける近くのノイバンシュタイン城へ何度も行くことができました。「9ユーロチケット」の存在に深く感謝しました。

朝食もホテルではなく、近くのパン屋でパンとコーヒーを注文し、公園のベンチで食事してピクニック気分を味わうことができました。さらにオーバーアマガウやフッセンでは、



日曜日の教会礼拝を守る機会も与えられました。今回の海外個人旅行は、自分で選択する喜びと楽しさ、そして海外旅行での自由さを感じることができた



ひとときでした。

「10月第一例会報告」

古賀 健一郎

日時 : 10月13日(木) 15:00~16:20

開催方法 : Zoom 例会

出席者 : 青木、秋元、伊藤、大高、古賀、古田

ゲスト : 横浜 YMCA 学院専門学校 日本学科 留学生 4名
畢 英俊(ピインジュン) 中国、易 冠霖(イグァンリン) 台湾、JHA VASHUDHA(ジャヴァシュダ) インド、NGUYEN THI KIEN DANG(グエン ティ キエウ ヤン) ベトナム

例会は横浜 YMCA 学院専門学校 日本学科に学ぶ留学生との交流を図るため、時間を繰り上げて大高ワイズの司会により15時より開始。コロナの影響も鑑み、Zoom 例会とした。留学生は横浜中央YよりZoom参加。会長の開会点鐘、挨拶。ワイズソング、ワイズの信条の唱和、古田ワイズより聖句朗読とお祈りがあつた。

今回の例会の主たるプログラムは、9月2日に開催された『第9回横浜 YMCA 専門学校日本語スピーチコンテスト』の参加者の中で、横浜 YMCA 学院専門学校に学ぶ4人の留学生との交流会であった。本年度の横浜クラブの大事な取り組みとして、横浜 YMCA 専門学校で学ぶ外国人留学生が、コロナ危機にあつて学費、生活などの困窮による不安にある現状に心に留め“あらゆる可能な支援”を実行し、まずは外国人留学生との生の声に耳を傾けたいとの趣旨での交流会とした。
★横浜 YMCA 学院専門学校 青木英幸学校長の司会で、留学生への質問形式で交流会は進行した。

(1) <<スピーチコンテストで選んだテーマの動機>>

① 畢 英俊(ピインジュン)

テーマ『故郷』を選んだ理由

・日本に来て、故郷について感謝の気持ちが深まり、楽しかったこと等、いろいろな故郷の思い出が私の心を支えている。

② JHA VASHUDHA(ジャヴァシュダ)

テーマ『音楽の力』を選んだ理由

・今年の6月に日本に来たばかり。音楽が大好きで、日本で生活する力(励み)に音楽はなっていることを皆様に伝えたかった。

③ NGUYEN THI KIEN DANG(グエン ティ キエウ ヤン)

テーマ『ベトナムの子供 日本の子供』を選んだ理由

・日本に来ての印象の一つに、“ベトナムの子供”と“日本の子供”について、育て方と世話の仕方に違いがある。それぞれの国から学ぶ点があり、改善する点があると感じる。

④ 易 冠霖(イグァンリン)

テーマ『ネットがない卓球台』を選んだ理由

・子どもの頃、卓球をやりたいかったが、両親も関心がなく叶わなかった。社会人になり収入を得、卓球クラブに入った。卓球は他人と友達となるには良き交わりの機会だ。

(2) <<スピーチコンテストに臨むにあたっての練習>>

・学校で担当の先生に指導を受けながら、3週間ぐらいかけた。1週間は発表原稿の推敲。1週間は原稿を暗記。1週間は鏡の前でスピーチ練習をした。



(3) 《日本語でスピーチすることのメリットは？》

- ・日本語学科の授業とスピーチコンテストで日本語を話すのとは雰囲気が違う。社会に出るといろいろな場面で人前で話す機会はあるだろう。今回は貴重な体験となった。
- ・今回のスピーチコンテストの体験は、自分が日本語で話す自信につながった。
- ・スピーチコンテストへの緊張感を乗り越えて勇気と達成感を得ることができた。

(4) 《スピーチコンテストに臨むにあたっての服装(民族衣装の方もいたが…)》

- ・大学院を目指しており、今回のスピーチコンテストや今後特に重要な場面で、スーツを着用したいと思っている。
- ・日本に来たばかりで綺麗な服はもっていないので、先生に相談して自国の服(インド)を着た。
- ・私はベトナム人で伝統的な民族衣装の”アオザイ”を大切に今回もそれを着てスピーチコンテストに臨んだ。
- ・民族衣装を着ると、「自分はインド人だ、ベトナム人だ頑張らなければ！」との意識が芽生える。

★青木校長のコメント

「日本語学科の男子学生は就職活動以外はほとんどスーツは着ない。入学式の時も私服のカジュアルな服で出席している。日頃の練習の成果とスピーチコンテスト留学生の姿が格好良く素敵で感動した。」

(5) 《学校での授業以外での一日の過ごし方》

- ・大学院のスポーツ科学専攻を目指して受験準備している。またスポーツジムでアルバイトしている。
- ・セブンイレブンで週3~4回アルバイトしている。
- ・新しい日本語クラスに移り、もっと日本語を上手になりたいとの思いが強まったため、授業の後は、自習室で勉強している。週一回のチューター活動にも参加し、日本での生活の疑問を質問したり、日常会話の学びの場となり大変役立っている。
- ・コンピュータグラフィックス等の映像関係の専門学校への受験準備中である。(今週10月出願受付)

(6) 《留学先に日本を選んだ理由》

- ・大連に生まれた。祖母は少し日本語が話せた。自分の性格と日本の文化が合っていた。2年前から日本語の勉強を始めて、日本の社会、政治、歴史、文化にさらに興味をもち日本留学を決めた。
- ・日本のアニメと文化が大好きで、もっと深く知りたいと思った。また日本語の学びは就職活動にもより良い条件にもなると考えた。
- ・ベトナムで8年間日本企業に勤めた。そこで日本人の真面目な仕事への取り組み方に感心した。できれば日本人男性

と結婚したいと考え実現した。日本人の男性はベトナム人と比べ大変働き者だ。

- ・小学生の頃台湾のテレビで日本の番組を観て興味をもった。社会人になって日本人の友だちと知り合っって日本語を学ぼうと思った。
- ・日本語を学びながら、”和服、着物の文化”に興味をもつようになった。

(7) 《日本に行く前と来た後での日本の印象の違い》

- ・ベトナムで働いていた日本企業では「日本人は大変優しい」との印象だったが、日本に来たらそれほどでもないかな?とも思ったりもしている。(笑)
- ・日本人は皆、真面目だと印象があったが、そうでない方もいると思った。(笑)
- ・私は「それはおかしい!」とかはっきり言うてしまうが日本人は相手のことを思いやってか少々“あいまい”な言葉で話すことに驚き、それはわかりにくい。

(8) 《生活の中で私たちが気づかないことを留学生の方が感じられる点》

- ・日本人は厳しい面がある。時間にも、仕事にも…。(日本語学科の先生は優しいけれど) 時間に対しても厳しく、時刻表通りの電車などの運行には自国と比べて驚く。
- ・日本人の歩くスピードは速い。お爺さんでも歩きが速くそれも疲れないように見えるが、私は疲れる(笑)
- ・日本では65歳以上の方でも働いている人が多いが、中国では少ない。日本人の高齢者の方が頑張っって働かされている姿に感動した。一方で、日本では、なぜ多くの高齢の方がそんなに働いているのか?とも疑問に思うこともある。(中国では定年退職 男性60歳、女性55歳で完全リタイアして年金生活となる)

★秋元ワイズのコメント

「日本人は、お金以上に、働いていること、仕事していることがすごく楽しいのだと思う。私はずっと仕事していたと思う。世の為に役になることをやっていたい、それで収入があるならなお良い。85歳まで働きたいという知人がいるが、体が丈夫なら何か仕事したいと思っている人は、日本人には多いのではと思う。」

★秋元ワイズに引き続いて、大高ワイズのコメント

「秋元さんのお考えはよくわかる。日本では、働く(はたらく)とは、傍(はた)を楽(らくにする)つまり、自分以外の誰かを楽にすることであり、自分以外の誰かを幸せにすることであると言われてきた。」

(9) 《コロナの状況次第だが、今後対面式の機会をもって、ワイズを含め留学生をサポートしている団体とこんなことやってみたい、こんなことができれば嬉しい…ことは?》

- ・アニメの文化を知りたい。
- ・日本の文化に触れたい為、着物を着てみたい。
- ・楽器を弾きながら皆で自国の歌、日本の歌など歌ったりして音楽を楽しみたい。
- ・日本語のヒアリングはある程度出来るのだが、スピーキング発音が不正確であるので、発音の向上を図る機会をもちたい。・・・等々。

今回、外国人留学生の方々から、短時間であったがこちらからの問いかけに対して、積極的に率直な感想や要望などを話

していただき、大変有意義な時を過ごすことができ感謝である。

こうした貴重な交わりの機会を今後も積み重ねていながら、私共が目指す『外国人留学生との豊かな交わり』を築き上げていきたい。まずは『着物を着る』や『音楽を楽しむ』企画を検討してみたい。

留学生との交流の後にはビジネス。今後の予定等を確認し、閉会点鐘にて会を閉じた。

「第25回横浜 YMCA インターナショナル・チャリティーラン報告」

古田 和彦

第25回横浜 YMCA インターナショナル・チャリティーランは、10月15日(土)、3年ぶりに臨港パークを使い、従来に戻って(オンライン併用もあり)実施された。ワイズメンについては、各クラブ2名という制限であったが、それを超えて会場に来た方々もあった。そして、皆、嬉しそうにボランティアとして活動し、久しぶりの対面での交わりを楽しんでいた。

7:45 スタッフとボランティアが集合し、赤いビブスを受け取り身にまとう。8:00 湘南・とつか YMCA の瀬戸ワイズの司会で受け入れ側の全体ミーティング。瀬戸ワイズが祈りをささげ、次いで大会実行委員長である小松湘南・沖縄部長と佐竹総主事から挨拶があり、続いて、役割毎のチーム構成、それぞれチームのチーフが紹介された。ワイズは受付担当となる。一部の方々はチームごとに渡すゼッケン等受付の準備、その他はテントの組み立て作業を行う。9:00 から各参加チームの受付を行うが、ワイズの人数が多くいることから、全般的にみて、手薄なところを自主的に手伝う人もあった。私もその一人で、レースが始まった後は、走るコースを間違えないようにランナーの誘導を行った。少し戻るが、9:30 開会式。競技場の諸注意がスタッフである瀬戸ワイズから、安全上の諸注意が神奈川県安全赤十字奉仕団の永野さんからなされた。

レースは10:00 から開始。幼児コースでは25チームが2回に分かれて、スペシャルラン(仮装や障がいのある方のチームなど)9チームが1回で、小学生コースは17チームが2回に分かれて走った。結果は後日発表となるが、やはり、目の前を一生懸命走る姿に接することはとても嬉しく応援の声も大きくなってしまふ。中にはコースをはみ出しそうな子もいて、私などがそれを見ていたことになる。また、車いすの方が走ったが、よく見ると、平らな道路の上にも小さな凹凸が随所にあり、車いすの大変さに思いを致させられた。ワイズ各クラブは各チームへの特別表彰を定める仕事を与えられ、横浜クラブは私がその役目を果たさせてもらった。

11:50 大きな事故もなく無事閉会式を終了した。その後、後片付け・ビブスを返却し、12:30 解散した。

心配された天候も問題なく、気持ちの良い爽やかな一日となった。来年もぜひ対面でできるよう今から願っている。

横浜クラブからは古賀、古田の2名が参加した。

チャリティーラン(オンライン)報告

青木英幸

一般の部のチャリティーランは、参加者全182名、参加チーム全31チームのご登録をいただき、10月17日～10月31日の15日間、スマートフォンに専用アプリを入れ歩数累計を計測するオンライン大会を実施しました。

横浜 YMCA 学院専門学校からは作業療法科4名、国際情報ビジネス科4名、日本語学科2名の学生から成る混成チームを2チーム作りエントリーし、日常生活でエレベーターの利用を控え階段を使用したり、10月27日に横浜中央 YMCA ～みなとみらい地区をジョギング(約4.0km)する特別プログラム「夜景ラン」に参加し、歩数を重ねていきました。

チーム順位は、「てくてく舞岡」が1位(2,267,686歩)、本校の「横浜 YMCA 学院専門学校チーム A 勝ちには価値がある/横浜ワイズメンズクラブ」が5位(1,052,888歩)、「横浜 YMCA 学院専門学校チーム B JOG/凡人社」8位(967,932歩)となりました。チャリティーランにご支援・ご協力をいただきましてありがとうございました。



「第26回湘南・沖縄部 部大会報告」

古賀 健一郎

本年度の部大会は、10月22日(土)15時から17時、会場の湘南・とつか YMCA と Zoom 機能を併用したハイブリッド方式で開催された。全体司会は部書記の板崎淑子ワイズが務めた。

【第1部】は、『テロ事件に学ぶ命の尊さ』と題し、富田俊彦先生(写真、日本市民安全学会副会長・理事)講演でした。



「通算26年間、警視庁刑事部捜査第三課に勤務された富田先生は、警察官として「あさま山荘事件」にかかわられ、警視庁での様々なご経験をもとに、現在は全国各地の防犯リーダー養成講習、地域安全安心の集い、危機管理セミナーや研修会で活躍しておられる。

「最近、公共の場所での無差別殺傷事件や改造銃を使用したテロ事件が発生しており、治安の悪化が心配されている。主義主張の違い、差別や不条理な社会を許せないなど、反発する理由はいろいろあると思うが、『理想』や『平和』を主張して、暴力を手段に尊い人の命を奪うことは絶対に許されない。世界の各地で争いが絶えず、多くの人達が被害され、血が流されている今だからこそ、過去の過ちを繰り返すことなく、人間としてどうあるべきか、命の大切さを真剣に考えて、日本の将来を担う子ども達に平和へと続く道を示さなければならぬ」との明快な主張をされる。市民の安全に最前線で取り組んでおられる方の貴重な講演であった。

(紙面スペースの関係上、第二部の報告は12月ブリテンに掲載予定)

近況「貴重な時間を過ごせる場所でありたい」

青木 英幸

本校日本語学科 10 月期生は学生 93 名(新規者 40 名・継続者 53 名)と聴講生 12 名、計 105 名となり、10 月 11 日より 2022 年度後期授業が開始され、現在ウクライナ避難民 3 名を聴講生として受け入れ実施しています。

10 月 24 日に TVK の取材を受け、当日の TVK ニュース(18:00~18:15)と NewsLink (21:30~21:55)の番組内で 1 分半程度放送されました。取材を受けたのはウクライナ東部ドニプロ市から 4 月に避難した大学生のアリナさんで、中級レベルの授業の中で尊敬語の使い方について学んでいる姿が放送されました。彼女は、週 5 日午前中に授業を受けながら、他の避難民の生活相談を受け内容を記録する仕事をしています。日本語学科専任教員の入江先生からは、「日本語の習得がすごく早く、強い気持ちが感じられ、授業の中では少しつらいことを忘れて今の環境を楽しんでもらえるようにいつも接しています」とコメントがありました。

アリナさんご本人からは、「横浜 YMCA に来て日本語を話したり一緒に働いたりすることで癒やされています」と伝えられ、日本語の授業や仕事が、彼女にとって貴重な時間となっているとことを改めて実感しました。これからも多くの学生にとって様々な機会を提供し、横浜 YMCA が貴重な時間を過ごせる場所でありたいと思っております。

第二例会報告

伊藤 誠彦

日時：10 月 27 日(木) 17:00~18:15

場所：Zoom による開催

出席者：青木、伊藤、大高、古賀、古田

協議・確認・検討事項

1. 行事予定の確認

- ・資料により 12 月までの予定が示され、確認した。
- ・12 月 3 日、横浜専門学校クリスマス追加

2. 協議・報告事項

A.横浜クラブの例会(11月、12月、1月)

- 1) 11 月第一例会の卓話者は古田ワイズで「横浜海岸教会創立 150 周年の話」
- 2) 12 月第一例会は横浜中央 YMCA 職員幹部の方々他との懇親会。入会候補者にも声をかける、原則としてゲストは招待。
- 3) 1 月第一例会の卓話者は横浜 Y 広報担当の池田直子さん。

横浜 YMCA の社会的な活動の価値を伝えていただく予定。

B.横浜 YMCA ウェルカムフェスタ

11 月 23 日(水)、横浜中央 YMCA1 階ロビーと「関内えきちか広場」の 2 カ所を会場として開催。メネットと共に物品販売の協力を要請。

閉会直前に古田ワイズより、10 月号が 7 頁に及ぶ長さになったため、ブリテン原稿の字数を制限してはどうかと問題提起があった。重要な提起であり、十分討議する余裕がなかったが、後日時間をかけて討議したい。



担当主事 青木 英幸

10 月の横浜ワイズメンズクラブ第

1 例会は、昨年引き続きオンラインで日本語スピーチコンテストに参加した本校日本語学科の留学生 4 名とワイズメンズクラブの皆さまと交流する時間をもちました。学生たちは日頃ご支援いただいている皆さまに直接感謝の気持ちを伝えることが出来て良かったです。会の中で話に上がった学生たちが「日本の着物を着てみたい」ということについて具体的に実施出来るように進められればと考えておりますので、ご意見等ございましたらよろしくお願いいたします。

横浜中央 YMCA ウェルカムフェスタの詳細が決まりました。11 月 23 日(祝)10:00~15:00 に「関内えきちか広場(横浜市営地下鉄ブルーライン 1 番出口すぐ)」の 1 カ所で、物品販売やキッズマーケットのバザーブース、工作ブース、ゲームブースの 3 つに分けて実施いたします。皆さまのご参加をお待ちしております。

12 月 3 日(土)13:00~14:30 に横浜 YMCA 専門学校クリスマス礼拝をオンライン (Zoom) で実施する予定です。詳細が決まりましたらご案内させていただきます。これからも学生たちの行事等に関わっていただく機会を設けていきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

11月例会プログラム

日時：11 月 10 日(木) 18:30~20:15

場所：横浜中央 YMCA+Zoom (ハイブリッド方式)

司会：齋藤ワイズ

1. 開会点鐘・挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・古賀会長
2. ワイズソング・ワイズの信条・・・・・・・・全員
3. 今月の聖句・・・・・・・・・・・・・・・・押川ワイズ
4. ゲスト・ビジターの紹介・・・・・・・・古賀会長
5. 卓話「プロテスタント・キリスト教の来日と教会の誕生」古田和彦ワイズ
6. ビジネス・報告・・・・・・・・・・・・・・・・古賀会長
7. **Happy Birthday** 大高幾子、伊藤比朗美、伊藤誠彦、押川幸男
8. 閉会点鐘

例会報告：大高ワイズ

12月の行事

日	曜	時間	行事内容	場所
3	土	13:00	横浜 Y 専門学校クリスマス	Zoom
8	木	18:00	横浜中央 Y 職員幹部の方と懇親会(兼)横浜クラブ例会	廣東飯店
17	土	14:00	横浜 Y クリスマス礼拝	海岸教会
22	木	17:00	横浜クラブ第二例会	Zoom

当ブリテン及び横浜ワイズメンズクラブに関するお問い合わせは、YMCA 青木英幸にご連絡下さい。

メール aoki_hideyuki@yokohamaymca.org

電話 045-661-0080